

科目名		設計製図 A			
担当教員		渡部 和久		実務授業の有無	
対象学科		インテリアデザイン科		対象学年	
必修・選択		必修		単位数	
				時間数	
授業概要、目的、授業の進め方		建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、学ぶことで図面の必要性を理解し、簡単な図面が描け、記号など、作成する実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。 3. 条件に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 4. 最終的には、木造住宅の製図、炉計図課題を作成し、評価、解説を行う			
学習目標 (到達目標)		建築製図の基本から学びます。建築業界での基本の木造住宅に必要な図面を読み取ることができ、テキストに沿ってトレース(書き写す)する事ができる様になる。図面を書くことにより、建築構造の各所名称も同時に覚えていく事を目的とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①初学者の建築講座 建築製図第3版(市ヶ谷出版)			
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	製図の基本-1 ①各種製図用具の名称・役割・使い方 ②平行定規の扱い方 ③図面の種類や図面の意味の引き方 ④線の練習	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、課題等で使う道具の役割を説明。①～②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
2	製図の基本-2 ①文字の練習 ②線の練習	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
3	配置図素1階平面図、2階平面図-1 ①平面図の概略。 ②敷地境界線→1階壁中心線→2階壁中心線→柱→壁線→開口部までをテキストに沿ってトレース。	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
4	配置図素1階平面図、2階平面図-2 ①壁仕上げ→建築。 ②サッシ仕上げ→設備。 ③階段関係までをトレース。	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～③の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
5	配置図素1階平面図、2階平面図-3 ①床仕上げ→外仕上げ→寸法・名称の記入	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
6	断面図、立面図-1 ①断面・立面の概要。 ②基準線、壁の中心線→開口部階段の記入	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
7	断面図、立面図-2 ①屋根・壁天井→開口部の仕上げ	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
8	断面図、立面図-3 ①各種仕上げ寸法・名称記入完成。	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
9	短計図 ①短計図の概略 ②切断線と見えがかり線の区分け ③縮尺の違い	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～③の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
各課題提出状況、授業態度、出席率の内容を総合的に評価。課題提出80%、授業態度10% 出席率10%		建築製図の基礎を、作図演習を通じて習得します。建築士試験に対応できる知識と技術を身につけるため、基本を固め、演習を繰り返すことでつてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴 一級建築士として建築現場監督業務を約10年携わる					

科目名		設計製図 A			
担当教員		渡部 和久		実務授業の有無	
対象学科		インテリアデザイン科		対象学年	
必修・選択		必修		単位数	
				時間数	
授業概要、目的、授業の進め方		・建築物設計における空間表現、考え方、計画の進め方を演習や課題を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要とされた設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答解説を繰り返すことで重要性を理解する。 4. 木造住宅の各種図面の作図方法と木質軸組み工法の仕組みを課題を通して習得する。			
学習目標 (到達目標)		・建築空間を表現、伝達する基礎的手法としての製図の知識・技術の習得 ・木造住宅の各種図面の作図方法と木質軸組み工法の仕組みを習得 ・建築物を立体的に表現する透視図法を習得			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		住宅計画演習(前期)でのエスキスプラン、テキスト(初学者の建築講座)。			
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	木造住宅の製図 (住宅計画演習でのエスキスプラン) ①オリジナルプランの作図 ・平面図の作図 ・断面図のエスキス及び作図 ・立面図のエスキス及び作図	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
2	透視図法 ①2点透視図法の作図方法 ・外観パース ・内観パース ・アイソメ図 ・アクトメ図	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
課題の期限内提出を基本とし、その上で図面の仕上がり具合や授業態度を含めた平常点で評価します。課題評価80% 平常点20%		前期の授業で学んだ技術を生かして、オリジナルプランの作図を学習する。建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への応用力を強化する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させ、習熟度を上げるために、精度の低い課題については、十分な解説と指導を行う。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴 一級建築士として建築現場監督業務を約10年携わる					

科目名		設計製図 B			
担当教員		三留 正		実務授業の有無	
対象学科		インテリアデザイン科		対象学年	
必修・選択		必修		単位数	
				時間数	
授業概要、目的、授業の進め方		建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、学ぶことで図面の必要性を理解し、簡単な図面が描け、記号など、作成する実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。 3. 条件に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 4. 最終的には、RC造の製図、炉計図課題を作成し、評価、解説を行う 5. 建築設計、エスキス力の習得、製図力の強化			
学習目標 (到達目標)		建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、実習を通じて習得する 鉄筋コンクリート構造、RC造構造、設計条件を理解する また、建築士2級の技術試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①初学者の建築講座 建築製図(市ヶ谷出版)			
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	鉄筋コンクリート構造の製図 ① 平面図の作図方法 ② 断面図の作図方法 ③ 立面図の作図方法 ④ 短計図の作図方法	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
2	特殊建築物(RC造)の設計 ① エスキス作成 ② 平面図作成 ③ 断面図作成 ④ 立面図作成	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
課題の期限内提出を基本とし、その上で図面の仕上がり具合や授業態度を含めた平常点で評価します。課題評価80% 平常点20%		建築製図の基礎を、作図演習を通じて習得します。建築士試験に対応できる知識と技術を身につけよう。またプロセスをチェックすることで習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、精度の低い課題については、十分な解説を行う			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴 設計業務、施工管理業務に21年実務に携わる					